

“多様な文化芸術教育資源を
体系的に管理できるようになって、
効果的で安定的な運営環境と
業務上の利便性を提供”



KOREA ARTS&CULTURE EDUCATION SERVICEの経営管理チーム チェ様

CASE STUDY

*
KACES

デジタルコンテンツを体系的に管理するために 情報バンクデジタル資産管理システムを構築

導入製品

IDAS
(I-ON Digital Asset
Management)

企業情報

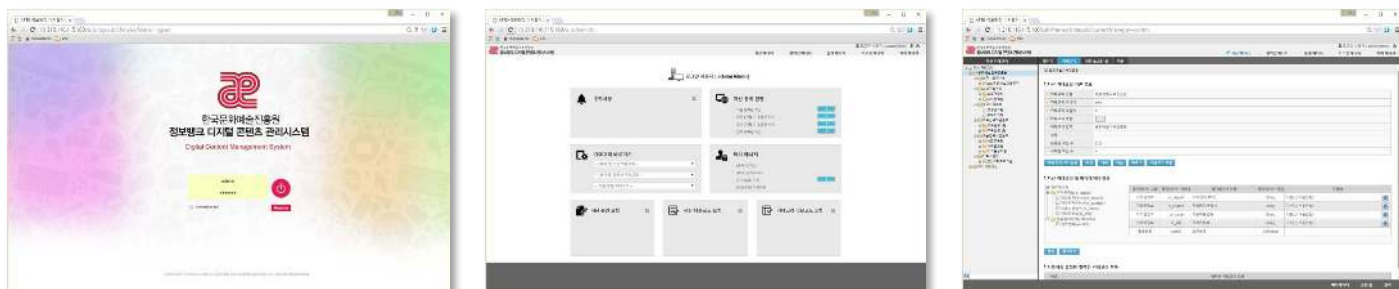
会社名: KOREA ARTS&CULTURE
EDUCATION SERVICE
設立年月日: 2005年2月
事業内容: 文化・教育/文化・芸術
紹介: 国民の文化生活の質の向上及び
国家と社会の創意的文化の力量強化
を目的として、文化芸術教育の振興・発
展を効率的に支援するために設立され
た公共機関

インタビュー日

2016年3月

KOREA ARTS&CULTURE EDUCATION SERVICEは学校文化芸術や社会文化芸術の教育支援、専門人材養成事業、学術研究や調査、創意教育センターの運営、国際交流業務など、文化芸術教育に関連する様々な事業を進めている中で、資源の体系的な管理システムがないため、かなりの困難を経験していた。

このような困難を解決して、オーダーメイド型の文化芸術教育資源を必要とする関係者及び不特定多数が簡単にアクセスして活用できる方法を提供するために、情報バンクデジタル資産管理システムを導入することになった。同機関の経営管理チーム チェ様からI-ON Communications(以下、アイオン)と一緒に進出したデジタルコンテンツの体系的な管理が可能な「情報バンクデジタル資産管理システムの構築」について具体的に聞いてみた。



I-ON Digital Asset Management

■ プロジェクトの背景および目標

“文化芸術教育資源を必要とする
関係者及び不特定多数が
簡単にアクセスして活用できる方案を提供することが目標”

他の類似機関も同じだと思いますが、今までは膨大な文化芸術教育資源がちゃんと管理されていませんでした。また資源が分散管理されていたため、正確な数値の把握ができず、資源の紛失・流失の問題もありました。こうした問題を未然に防止し、文化芸術教育資源を必要とする関係者及び不特定多数が簡単にアクセスして活用できる方案を提供することが目標です。

■ 導入理由

“関連機関及び類似機関で既に活用されているため、
検証されたシステムだと確信し、導入を最終決定”

今回、事業を推進する際にあまり時間の余裕がない状況でした。時間を短縮するため、関連機関や類似の公共機関で既にアイオン社の‘IDAS’(I-ON Digital Asset Management)が活用されていることを確認し、検証された‘IDAS’(I-ON Digital Asset Management)を導入することになりました。

■ 導入後の効果

“多様な文化芸術教育資源を体系的に管理できるようになり、
アーカイブ環境を構築することで、より効果的で
安定的な運営環境と業務上の利便性を提供”

最も大きな効果は、分散管理されていた様々な資源を体系的に管理することで、資料の流失や削除されることを未然に防止できるようになりました。また常時的にサービスを提供して、文化芸術教育を振興するための合わせた情報の提供が可能となりました。

なお、関連機関及び団体など、連携サービスするアーカイブ環境を構築することで、より効果的で安定的な運営環境と業務上の利便性を提供します。そして需要者及び関係者は時間や空間と関係なく、必要な文化芸術教育資源を確認できるようになりました。

■ 今後の計画

“アイオン社と持続的に協議し、
より安定的なサービス運営及び機能補完を行う予定”

当プロジェクトを通してインフラ的な部分も導入し、1段階の基盤構築事業で、より安定的なサービスの運営及び機能補完が必要だと判断します。よって今後は2段階の検索機能の強化、図書館システムとの連携、コンテンツマネジメントシステムの適用など、体系的な機能の改善を構想しています。そしてハードウェアの部分では、システムを安定的に運営するために、あらゆるシステムの二重化および保存スペースの確保に関わる部分をアイオン社と持続的な協議を通じて進めていく予定です。